



欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称	(仮称)クレフォート関東工場新築工事	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
------	--------------------	-----	-----	--------	----	----

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.1 / 5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.6 / 5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5 / 5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 / 5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上 ふつつ 3点以上 がんばろう 3点未満

## 3. 重点項目についての環境配慮概要

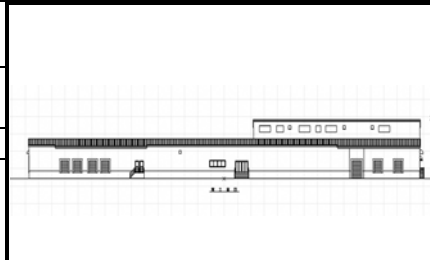
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目		
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	3.1	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 特になし</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし</li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦外皮性能向上及び1次エネルギー消費量を抑える様務めた。省エネルギー適合判定 建築物全体BEI=0.68 ⑨LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮した。</li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬発泡材を用いた断熱材等を使用しておらず環境に配慮した。</li> <li>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし</li> </ul>	Q-1 2 2.1 2.12 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑩ 生物環境の保全と創出 ⑪ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑬ 自然エネルギー利用 ⑭ 設備システムの高効率化 ⑮ モニタリング ⑯ 運用管理体制 ⑰ 節水 ⑱ 雨水利用システム導入の有無 ⑲ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑳ 材料使用量の削減 ㉑ 既存建築躯体等の継続使用 ㉒ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ㉓ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 部材の再利用可能性向上への取組み ㉖ 有害物質を含まない材料の使用 ㉗ 消火剤 ㉘ 断熱材 ㉙ 冷媒 ㉚ 地球温暖化への配慮 ㉛ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	2.6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰躯体と仕上げ、設備配管・配線等、工種別の躯体が容易にできるようにした。</li> </ul>	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑲ 電気設備 ⑲ 機械・配管支持方法 ⑲ 通信・情報設備	
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑱階高に十分なゆとりを設けた</li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲駐車場、駐輪場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。</li> </ul>	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲	⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	2.3	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上) 特になし</li> <li>■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) 特になし</li> </ul>	Q-3 1 ⑵ 2 ⑶ 3 3.2 ⑶ LR-2 2 2.5 ⑲ LR-3 2 2.2 ⑲	⑵ 生物環境の保全と創出 ⑶ まちなみ景観への配慮 ⑶ 敷地内温熱環境の向上 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クレフォート関東工場新築工事	階数	地上1F
建設地	静岡県駿東郡小山町湯船字下原959番地	構造	S造
用途地域	都市計画区域区域内(市街化調整区域)	平均居住人員	0人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,048時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年8月18日
敷地面積	19,279 m <sup>2</sup>	作成者	渡邊 貴正
建築面積	4,200 m <sup>2</sup>	確認日	2021年8月18日
延床面積	4,200 m <sup>2</sup>	確認者	渡邊 貴正



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.5** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 1.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 1.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.5

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	CASBEE静岡2016年版による評価結果	
Q1 室内環境	特になし	
Q2 サービス性能	0	
Q3 室外環境(敷地内)	特になし	
LR1 エネルギー	・外皮性能の向上及び1次エネルギー消費量を抑える様努めた。 省エネルギー適合判定 建物全体BEIm=0.68 ・LED照明の採用するなど、設備システムの高効率化に配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	・発泡剤を用いた断熱材等を使用してならず、環境に配慮している。	
LR3 敷地外環境	・駐輪場・駐車場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい